

松山東高校ラグビー部紹介

ラグビーの魅力



One for all, all for one.

1チーム15人という大人数とするスポーツ。

実に10種類のポジションがある。全ての体型の選手に役割がある。適材適所。各ポジションが専門的で、その道を極めれば誰でも戦力になりうる。選手の特徴・長所を最大限に生かし、仲間を信頼し、重い責任を果たし、チームの結束で勝利を目指す。組織としてラグビーに向き合い、勝利を追及する。集団のために自己を犠牲にする。個の輝きが全体への奉仕となり、チームの輝きが個を成長させる。

Honor is equal.

体を張るスポーツゆえの連帯感。仲間の頑張り、控え選手やマネージャーの姿が胸を熱くする。トライした選手も派手なパフォーマンスなどはしない。皆でとったトライ。皆で得た勝利。勝利の名誉や栄光は皆に平等に分け与えられる。

No side の精神

ゲームセットではなく、ノーサイド。試合終了とともに敵味方はなくなる。同じラグーマンとして、仲間だけでなく対戦相手をも尊重する。レフリーを敬い、裁定には絶対に従う。フィールドには感謝の心があふれている。

Law の精神

英国発祥の紳士のスポーツ。ゲームジャージには必ず襟がついている。規律を重んじ、競技規則は rule ではなく law である。ラグーマンとしての品位、徳・知・体のバランスが問われる。紳士のする野獣のスポーツ、それがラグビーである。

楽苦備（ラグビー）人生

ラグビーには楽しみと苦しみが備わっている。どちらに転ぶかわからない楕円球。痛みをともないながらも勇気を出して前進する。ラグビーの神髄と人生の真理は、驚くほど共通している。子どもをいち早く大人にし、大人に永遠に子どもの魂を抱かせるといわれるラグビー。荒ぶる魂・男らしさを身に付けさせるとともに、いつまでも童心・無垢さを忘れさせない。リーダーシップとチームワークを具現化したスポーツでもある。ラグビーで飯は食うのは難しいが、ラグビー精神では飯が食える。社会に出てからこそラグビーは生かされる。

華やかさと激しさ

ランやパス・キックに見られる華やかさと、当たりやタックルに見られる激しさ。走る、蹴る、当たる、投げる、跳ぶ。全ての動作が含まれるスポーツ。球技であり、格闘技でもある。ハートは熱く、頭はクールに。情熱と冷静のコントロールが求められる。

コーチと選手の対等性

選手と監督が共に戦略を構築し、実践し、結果をフィードバックし、再構築し、またチャレンジする。複雑なルール。ルールの中から新たなプレーを編み出し、ルールがプレーに追いつく特異なスポーツ。コーチと選手は戦友であり、対等である。選手はコーチの駒ではない。1度試合が始まれば、全てのプレーの選択権は選手に与えられ、コーチはそれを見守る。選手の自主性が尊重される。ラグビーはまさに自由なのである。

試合前に泣く

試合後に泣くスポーツはあまたある。ラグビーは試合前に泣く。仲間が集まって、試合に臨むことができる幸せに涙する。泣きながらグラウンドに入場し、キックオフを迎える。

東高ラグビー部の魅力

伝統とファミリー

東高ラグビー部は昭和6年に発足し、80年の歴史をもつ愛媛で1番古いラグビー部である。OB・OGは1,000名近くおり、戦績も全国大会出場や四国大会優勝などを繰り返している。近年は部員不足に悩まされているが、県ベスト8の戦力を保持し、シード校に迫っている。学年を問わず部員どうしの絆が強いのが東高ラグビー部の1番の伝統である。現在3年生13名、2年生5名、計18名。ぎりぎりの人数であるゆえ、仲間の大切さを知っている。ひとりひとりが大切な仲間であり、心強い戦友である。卒業時には、熱い思い出とかげがえのない仲間が必ず得られる。OBは正月にOB戦で集まるなど結束が強く、一生の友となっている。保護者会も仲が良く、東高ラグビー部ファミリーの輪が広がっている。



文武両道

学生にとって最も大切なのは勉強である。東高ラグビー部のモットーは文武両道。練習時間は約2時間、休日も約3時間の半日練習。朝練習もなし。体を動かすことで日々が充実し、生活リズムもよくなる。勝利のために戦略を練り実践していく習慣は、勉強にも生きる。近年の入試でも、東京大学や京都大学への合格を始めとして、輝かしい実績を残している。

初心者集団

東高ラグビー部には、中学までにラグビーをしていた経験者はほとんどいない。初心者集団でどれだけ経験者豊富な強豪校に対抗していくかを、日々追い求めている。現部員の中学校時代の部活も、野球・サッカー・バスケットボール・バレーボール・ソフトテニス・陸上競技・剣道・柔道・空手・レスリング・文化部・帰宅部と多種多様。真っ白なところからスタートし、上達の喜びや爽快感・充実感を得る。経験不足を頭脳と集中力で補い、シード校に勝負を挑む。

生徒による自治運営

東高ラグビー部は、選手自らがチームの目標を決め、練習計画を立てる。コーチは選手の自主性を重んじ、適切にアドバイスしてくれる。戦術・会計・書記・用具・風紀・筋力・持久力・健康・広報など様々な役職があり、部員全員でチームを運営していく。練習内容も、何のための練習なのかを常に考え、目的意識をもって練習をする。チームで向上していくため、互いにコーチングし高めあう。

学校行事もリードする

学校行事はラグビー部が中心となって引っ張るという強い気持ちで臨んでいる。運動会のグループ長はラグビー部から過去最も多く輩出されている。ラグビー部は行事もやる。経験こそが成長の糧となる。

経済的な活動

ラグビーはアメフトのような高価なプロテクターの購入は不要。用具にかかるも費用も、他の種目と大差なし。OB会も支援して下さるため、月々の部費も不要であり、経済的に活動できる。

がんばっていきましょい

東高を象徴する「がんばっていきましょい」の言葉は、ラグビー部の顧問であった高橋俊三先生が生み出した言葉である。ラグビー部の試合前の気合い入れにも使われている。「がんばっていきましょい」は、東高ラグビー部の心のよりどころとなっている。

ぜひ見学に来てください

ここまでラグビーの魅力・東高ラグビー部の魅力を伝えてきました。東高で新しいスポーツに挑戦してみませんか？ラグビーは男のスポーツという印象が強いと思いますが、オリンピック種目になったことから、女子部員も募集し始めました。愛媛県代表としてプレーをしてみませんか？マネージャーも募集しています。2年生部員が5人と少ないので、1年生が10人以上入らないと大会に出ることすらできない危機的状況です。グラウンド南西のHポール下で練習しています。ぜひ見学に来てください。